

町田市本町田地区新たな学校づくり

基本計画検討会 報告書

— 町田第三小学校・本町田東小学校・本町田小学校 —

2023年1月

本町田地区新たな学校づくり基本計画検討会

はじめに

2021年5月に町田市教育委員会が策定した「町田市新たな学校づくり推進計画」では、本町田地区の「町田第三小学校」・「本町田東小学校」・「本町田小学校」の3校の統合が計画されており、現在の本町田東小学校の校地を新たな学校の建設候補地としています。また、統合のスケジュールとして、2025年度に本町田東小学校と本町田小学校の統合が、そして、2028年度には、これらの2校と町田第三小学校の統合が計画されています。

推進計画策定後、3校の保護者や地域の方を対象とした意見交換会を町田市教育委員会が開催し、保護者の方々からは、主に通学距離が延びてしまうことに対する不安やその安全対策について、地域の方々からは、連綿と続く各校の歴史を大事にしてほしいといったご意見をはじめとして、本町田地区の新たな学校づくりに関して多くのご意見・ご要望をいただきました。

これらの3校の統合にかかる様々なご意見について、統合対象校の保護者や地域住民の方々と一緒に具体的な検討を行うため、2021年12月、「本町田地区新たな学校づくり基本計画検討会」が設置されました。

検討会では、毎回各委員から建設的な意見が活発に交わされました。どの意見にも共通していたのは、自分たちの地域への愛、さらにはこの地域の子どもたちへの愛です。今回、「町田第三小学校」・「本町田東小学校」・「本町田小学校」の3校が統合するにあたり、各委員の方々がそれぞれの地域を大切に思いつつも、未来の子どもたちのことを第一に考え、統合後に目指すべき新たな地域の姿を前向きに模索していこうとする姿勢がとても印象的でした。

そのように協力的で温かな地域の方々の想いを支えに、2025年度の本町田東小学校と本町田小学校の統合や、2028年度の町田第三小学校の統合について、互いの絆を強めながら、本町田地区の新たな学校文化、地域文化が築かれていくことを心より期待しています。

2023年1月

本町田地区新たな学校づくり基本計画検討会
会長 若月 雅裕

目次

第1章 本町田地区新たな学校づくりの概要	1
1 本町田地区新たな学校づくりの概要	2
第2章 基本計画検討会における検討内容	5
1 通学負担の軽減	6
2 通学路の安全対策	14
3 施設整備内容.....	16
4 子どもたちへの配慮	19
5 本町田地区 新たな学校名（案）	20
6 歴史の継承	22
7 育てたい子ども像	24
8 学校運営協議会・ボランティアコーディネーター.....	26
9 P T A（保護者と教職員による組織）	27
10 校歌・校章.....	28
11 その他新たな学校づくりに関連する事項	30
 (資料)	
資料1 町田市新たな学校づくり基本計画検討会設置要領	36
資料2 本町田地区 新たな学校づくり基本計画検討会委員名簿	38
資料3 本町田地区新たな学校づくり基本計画検討会 開催経過.....	39
資料4 学校施設の利用に関するアンケート（概要）	40
資料5 町田市「学校づくり意見募集」調査報告書（本町田地区）（概要）	42
資料6 本町田地区 路線バス状況調査の結果	45
資料7 学校施設配置に関するワークショップのまとめ	46
資料8 統合新設校の学校名選定基準について	48
資料9 町田市新たな学校名意見募集調査報告書（本町田地区）（概要）	49
資料10 統合対象校の物品まとめ	51

第1章 本町田地区新たな学校づくりの概要

1 本町田地区新たな学校づくりの概要

- (1) 本町田地区の対象校となる小学校
- (2) 統合・新校舎建設のスケジュール
- (3) 新たな通学区域（本町田・藤の台1～3丁目）
- (4) 新たな学校の建設予定地（現在の本町田東小学校）
- (5) 新たな学校の運用体制

1 本町田地区新たな学校づくりの概要

本町田地区の新たな学校づくりを検討するにあたり、町田市教育委員会における新たな学校づくりの基本情報を共有しながら意見交換を実施しました。

(1) 本町田地区の統合対象校

本町田地区において統合となる小学校は、町田第三小学校、本町田東小学校、本町田小学校の3校となります。2025年度の本町田東小学校と本町田小学校の統合時の推計児童数は531人、2028年度の新校舎使用開始時における推計児童数は750人です。

■ 町田第三小学校 (築56年)



① 学校の変遷

1952年：町田第三小学校開校
(陶化学校-町田小学校本町田分校-町田小学校から独立)

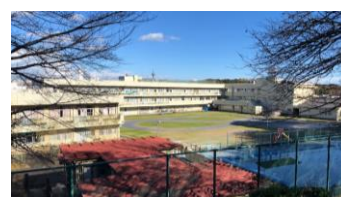
■ 本町田東小学校 (築51年)



① 学校の変遷

1970年：本町田東小学校開校
(町田第三小学校の一部児童転入)

■ 本町田小学校 (築44年)



① 学校の変遷

2002年：本町田小学校開校
(「本町田西小学校」「緑ヶ丘小学校」「原小学校」が統合)

② 児童数・学級数 (2022年5月時点)

通常の学級 435人 14学級

② 児童数・学級数 (2022年5月時点)

通常の学級 214人 9学級

② 児童数・学級数 (2022年5月時点)

通常の学級 379人 12学級

特別支援学級 (知的) 25人 4学級

特別支援学級 (自閉症・情緒)

31人 4学級



本町田地区新たな学校 推計児童数・学級数

※その他に特別支援学級(知的、自閉症・情緒)の配置を想定

通常学級	2025年度	2028年度
児童数	531	750
学級数	17	24

(2) 統合・新校舎建設のスケジュール

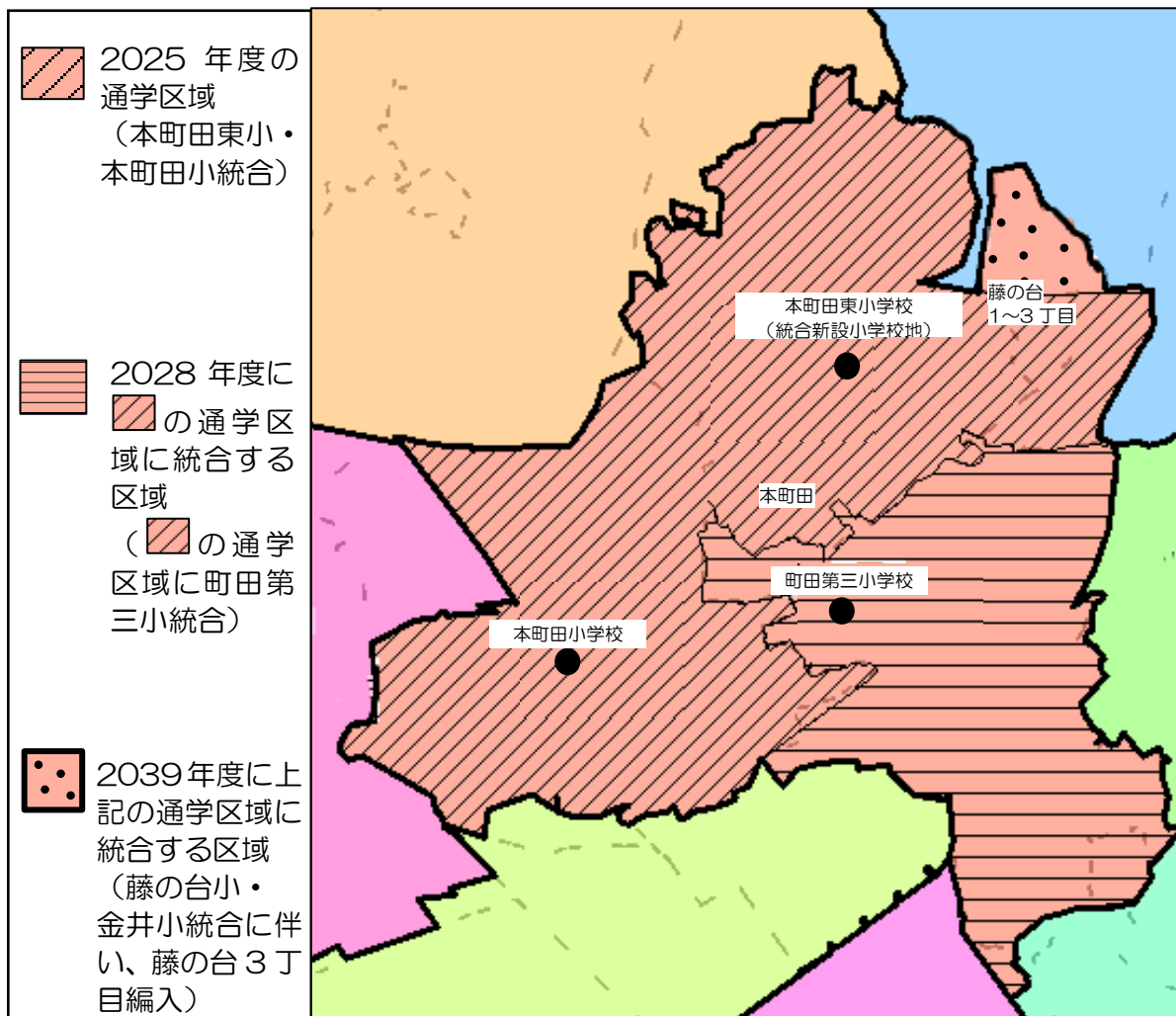
本町田地区では、2025年度に本町田東小学校・本町田小学校が統合し、通学先が現在の本町田小学校となります。その後、2028年度に、町田第三小学校と統合するとともに、現在の本町田東小学校の位置に新校舎を建設し、使用を開始します。

<表1-1-1> 統合・新校舎建設のスケジュール

対象	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
本町田東小	既存校舎	既存校舎	新校舎建設	新校舎建設	新校舎建設	☆新校舎使用	☆新校舎使用
本町田小	既存校舎	既存校舎	既存校舎	既存校舎	引越	引越	引越
		仮設校舎建設	仮設校舎	仮設校舎	仮設校舎	仮設校舎	→ 取り壊し
町三小	既存校舎	既存校舎	既存校舎	既存校舎	既存校舎	統合	統合

(3) 新たな通学区域（本町田・藤の台1～3丁目）

<図1-1-1> 本町田地区新たな通学区域図



(4) 新たな学校の建設予定地（現在の本町田東小学校）

<図1-1-2> 現本町田東小学校の校地状況



- 住所：東京都町田市本町田 3350
- 地域地区：第一種中高層住居専用地域、準防火地域
- 敷地面積：約 17,000 m²
- 容積率/建ぺい率：100%/50%

【計画地の特徴】

- 4面を高低差のある道路と擁壁で囲われている。
- 正門付近に交差点があり、児童や来校者等の動線が集中している。



(5) 新たな学校の運用体制

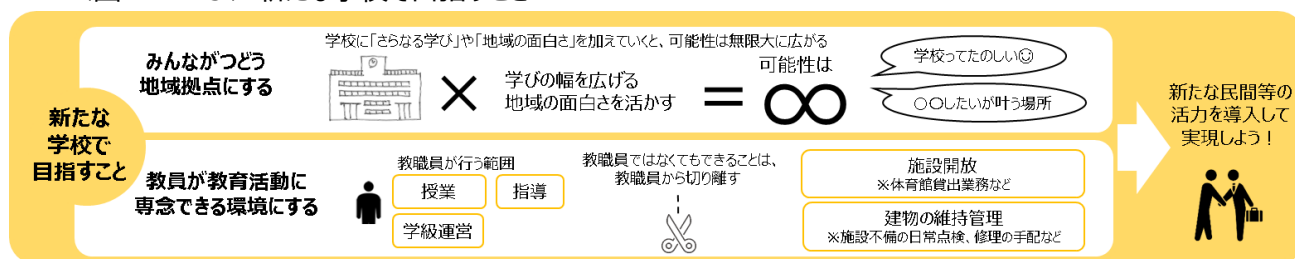
教育委員会は、新たな学校をつくる中で 2 つのことを目指し、学校の運用体制の検討を進めています。1 つ目は、子どもにとっても地域の方にとっても、学校がさらなる学びや地域の面白さを活かせる地域の拠点になること、2 つ目は教員が教育活動に専念できる環境にすることです。

学校が地域の拠点となることについては、子ども専用区画と地域に開放する区画にしっかりとセキュリティラインを設け、子どもたちが使っていない時間は地域の方が一部の教室などを利用して活動できるようにしていきます。さらに、地域に開放する区画を利用して、子どもの課外授業や習い事、地域の方が参加するプログラムの展開など、子どもが新たな学校でできる活動を増やすとともに、みんなの学びやつながりのきっかけづくりをしていきます。

また、このような取組みが、多忙化する教員のさらなる負担とならないよう、教員ではなくでもできる学校施設の開放に関する事務や建物の維持管理は教員以外の民間等が行う体制をつくっていきます。

これらを実現するため、民間等のノウハウを活用した運用面の仕組みを検討していきます。

<図 1-1-3> 新たな学校で目指すこと



<参考> 学校施設の利用に関するアンケート

学校施設を地域施設として利用する可能性のある方に向けて行ったアンケート調査について、検討会では内容と結果を情報共有しました。

※学校施設の利用に関するアンケートについては、P40~41（資料4）参照

第2章 基本計画検討会における検討内容

検討会では、新たな学校づくりにおける検討課題について、ワークショップ形式での話し合いや現地確認などを行いながら、委員が意見を出し合い検討しました。

この章では、検討内容や、検討会での意見・要望などを、検討項目ごとに整理しました。

- 1 通学負担の軽減
- 2 通学路の安全対策
- 3 施設整備内容
- 4 子どもたちへの配慮
- 5 本町田地区 新たな学校名（案）
- 6 歴史の継承
- 7 育てたい子ども像
- 8 学校運営協議会・ボランティアコーディネーター
- 9 P T A（保護者と教職員による組織）
- 10 校歌・校章
- 11 その他新たな学校づくりに関連する事項

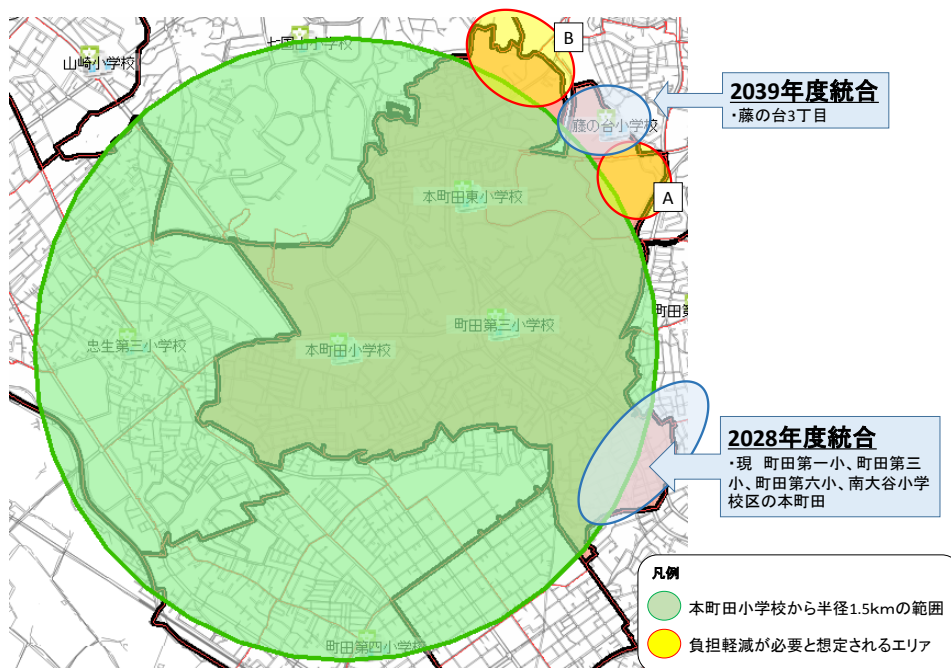
1 通学負担の軽減

本町田地区の新たな学校では、現在の本町田小学校の位置に通う 2025 年度～2027 年度の間、現在の本町田東小学校の位置に通う 2028 年度以降、それぞれに通学時間が長くなる地域があり、通学の負担軽減が必要になると想定されます。検討会では、通学区域及び通学距離、教育委員会の考え方を踏まえて、検討しました。

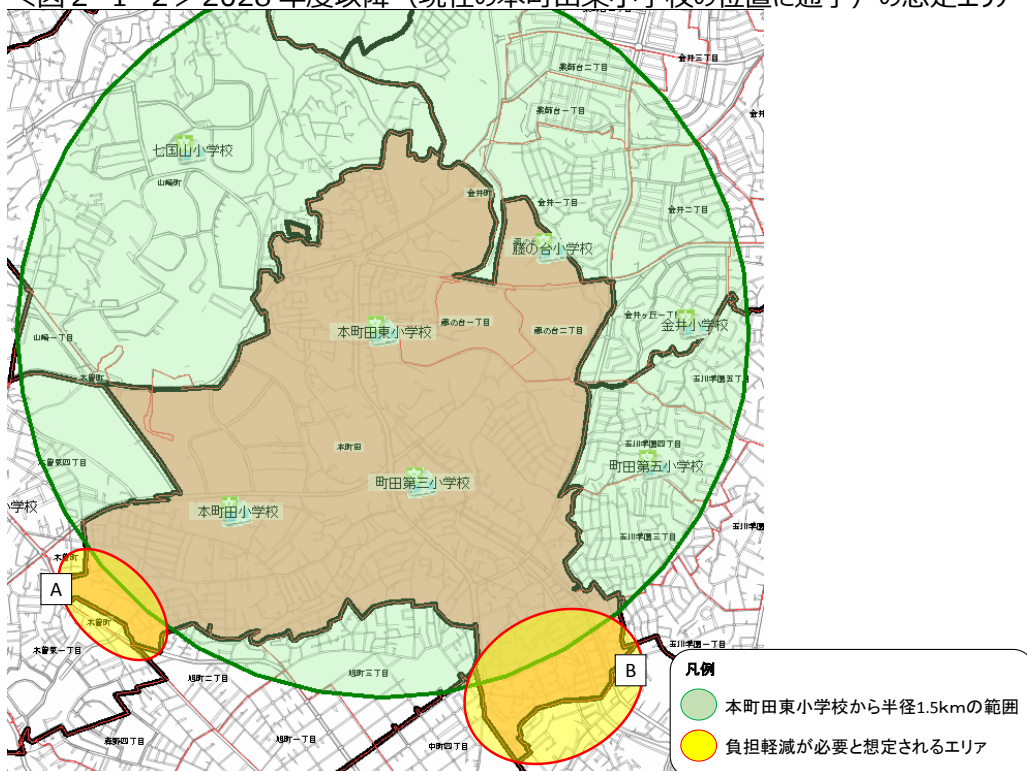
(1) 新しい通学区域における通学負担の軽減が必要と想定されるエリア

通学は、徒歩を基本としています。しかし、新しい通学区域においては、これまでより通学区域が広がることから、現行の通学費補助制度も踏まえ、学校の位置から概ね 1.5 km 以上離れた地域を対象に、通学の負担軽減を検討することとしました。

<図 2-1-1> 2025 年度～2027 年度（現在の本町田小学校の位置に通学）の想定エリア



<図 2-1-2> 2028 年度以降（現在の本町田東小学校の位置に通学）の想定エリア



(2) 公共交通機関等を利用した通学の検討

負担軽減策の1つとして、公共交通機関等を利用した通学があります。教育委員会の公共交通機関等を利用した通学の考え方として、まず、公共交通機関による通学が可能かどうかを検討し、公共交通機関による通学ができない場合、公共交通機関以外の通学方法を検討する方針が共有されました。

本町田地区では、公共交通機関として路線バスが想定されることから、路線バスによる通学が可能かどうかについて、教育委員会において検討している評価項目の視点で本町田地区の状況を調査し、その結果※1、路線バスを利用した通学が可能であると判断しているとの報告がありました。

これらのことから、検討会では、徒歩または路線バスでの通学を前提として、路線バスを利用した場合における心配な点や対応策について、ワークショップを通じて検討しました。

あわせて、「学区外通学制度の見直し」について、教育委員会が設置する「町田市学校の統合に伴う学区外通学と費用負担等検討委員会」において検討することについても、検討会において確認しました。

(3) 路線バスを利用するにあたって出された意見※2

公共交通機関を利用した通学方法の議論において、路線バスによる通学が可能かどうかについては多くの意見がありました。検討会で出された主な意見は下記のとおりです。

- ・朝に時間どおり乗せられるか心配。特に1本乗り遅れたらというのが心配事の一つ。
- ・小学生は荷物が多い（特に月曜日や新学期など）。荷物を分散して持っていけるような対応をしてほしい。
- ・子どもがバスに乗ったか、目的のバス停で降りられたか確認できる何かがあるといい。
- ・通学費補助を支給する世帯としない世帯の距離の線引きが難しいと思う。
- ・子どもが乗るバスが集中すると思うので、混雑的に本当に乗ることができるか心配。
- ・バスが遅延したときや、早く着き過ぎちゃったらどうしようという心配がある。
- ・社会で生きていくうえでバスに乗らないという人のほうが少ないので、社会勉強としてもそういうことを学んでいってほしいなとも思う。
- ・今までいなかった子たちが乗ると現在利用している乗客にも影響が出るので、周囲にも理解をしてもらうために周知をしっかりとしてほしい。
- ・バス停の待つときの歩道が狭いところが心配。（成瀬街道にある山村のバス停など）
- ・バスの乗り降りがスムーズにできるかが心配。誰かついていないといけないのではないかな。
- ・お行儀よく乗ってられるか、お話をしたり楽しくなったりする子もよく見るので、周囲の乗客との関係が心配。
- ・低学年だからバス通学で、高学年だから歩いているかというところでもなくて、1年生のときから1.5km以上でも歩いて通っているお子さんも大勢いた。
- ・実際にバスに乗る児童の保護者から意見を聞き、バスに乗れるのか判断すべき。
- ・新しい学校で受け入れる体制も整えていくということも併せて必要なことだと思っている。
- ・バスを利用して通学する学校にいた経験があるが、バス通学について問題になるということはほとんどなかった。ただ、バスに乗り遅れないように、急に走り出すのが危ないということも、旗振りの人から聞いた。
- ・学校からの下校のタイミングについては、バスの時間も考慮するという事例も実際にあるので、実施してほしい。

※1 本町田地区 路線バス状況調査の結果についてはP45（資料6）参照

※2 同時期に開催していた南成瀬・鶴川東・鶴川西・南第一小学校地区検討会の意見を含む

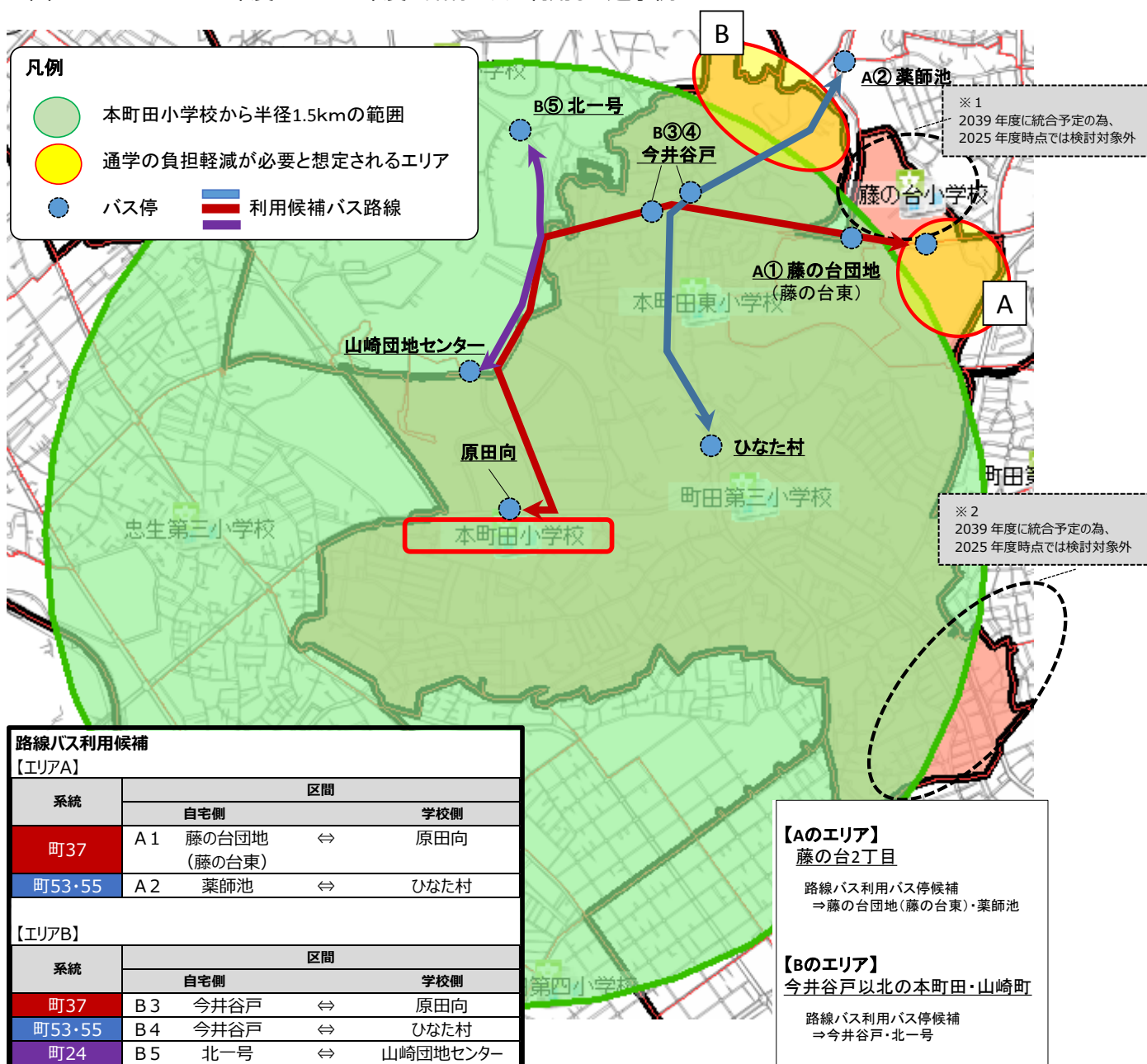
(4) 路線バス通学における安全対策等

現在の本町田小学校の位置に通学する2025年度～2027年度及び現在の本町田東小学校の位置に通学する2028年度以降それぞれで、路線バスを利用した通学例を基に、2つの利用場面と全体的な観点から、路線バス通学における安全対策等について検討しました。

①2025年度～2027年度（学校の位置：現在の本町田小学校）

現在の本町田小学校の位置に通学する、2025年度から2027年度について、下記の路線バスを利用した通学例を基に、路線バス利用が想定されるエリア及び学校周辺における、路線バス通学時に想定される徒歩経路と、経路上の懸念点や安全対策等について意見を出しあいました。

<図2-1-3> 2025年度～2027年度の路線バスを利用した通学例



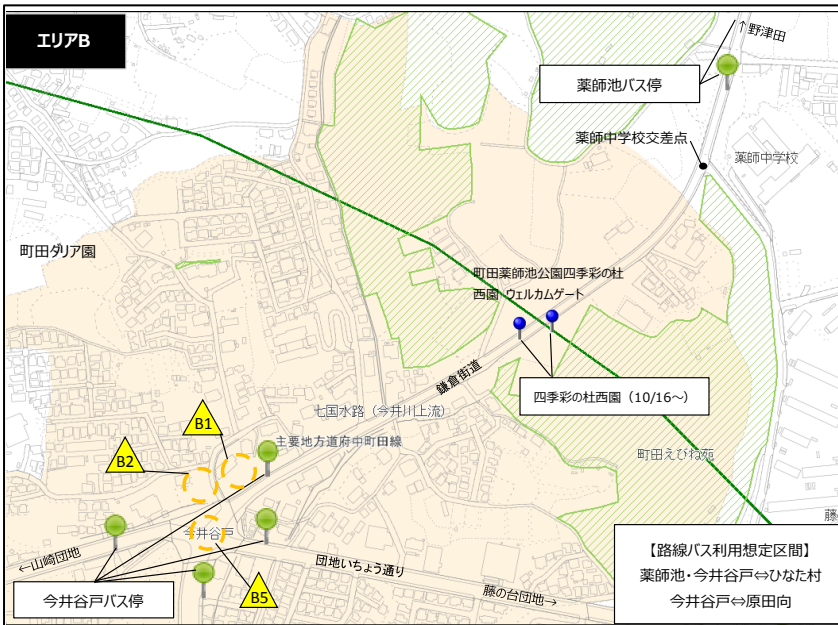
【場面 1】バスに乗るまで・バスを降りた後

＜図 2-1-4＞エリア A（藤の台二丁目）からバス停までの想定経路



意見
<ul style="list-style-type: none"> 藤の台団地に住んでいる子どもは藤の台団地のバス停で乗ると思う。 団地の中を歩いて藤の台団地のバス停に行くのがいいと思う。ただし団地の自治会への周知や理解を求めていく必要があると思う。 藤の台団地のバス停に行くにあたって、藤の台団地の中を通り抜けることができるかどうか。通り抜けが難しい道が多いと思う。（ただあまり児童はいないかもしれない） 藤の台小学校のほうが近いから本町田小学校ではなく藤の台小学校に行く子もいると思う。

＜図 2-1-5＞エリア B（今井谷戸以北の本町田・山崎町）からバス停までの経路



意見
<ul style="list-style-type: none"> 今井谷戸以北に住んでいる子は、今井谷戸から乗ると思うが、歩道橋がないから横断歩道を利用するしかないから注意が必要 原田向に行く今井谷戸のバス停行くまでには歩道橋がないから横断歩道を渡る必要があるが、バスが来そうな場合にはあわててわたる子もいると思うから旗振りの人がきちんと渡してあげたりすることが必要だと思う。 今井谷戸のバス停を乗るまでは、現行の通学路を通りながらバス停に行くことができる。 原田向の今井谷戸のバス停の前の待機場所は狭いと思う。（行くときにはバス停の目の前の店舗は開いている時間ではないが） 薬師中学校付近に住んでいる人も、原田向で降りることを考えると思うから四季彩の杜西園バス停ではなく、藤の台団地のバス停で乗るのではないかと 薬師中学校前の道は歩車分離されているし中学生もいるから十分安全だと思う。 藤の台小学校のほうが近いから本町田小学校ではなく藤の台小学校に行く子もいると思う。

＜図 2-1-6＞学校周辺（現在の本町田小学校の位置）からバス停までの想定経路



意見
<ul style="list-style-type: none"> 原田向の前の歩道の幅を広げてほしい。 本町田小学校前にはお迎えなどで停車している車が多いから、車待ちできるようなスペースを道路工事などで確保してほしい。 本町田小学校に行く3年間だけでも、原田向のバス停の場所を本町田小学校により近い場所に動かしてほしい。 原田向のバス停で降りると思うからひなた村のバス停で降りることはないのではないかと 原田向-今井谷戸のバス停は行きも帰りも坂道の途中にある。自転車も多い道なのでスピードがつかないような対応ができないか。スピードを落としてすり抜けるボールの設置など 本町田小学校から帰るときにバス停までは横断歩道を渡るから安全指導が必要だと思う。 ひなた村のバス停で降りたあとは、鎌倉街道の東側の歩道を歩くことになると思うが、鎌倉街道を渡りにくいと思う。また、2025～2027は町田第三小学校の子ども達と木曾団地東の交差点で交錯することがあると思う。

②2028年度以降（学校の位置：現在の本町田東小学校）

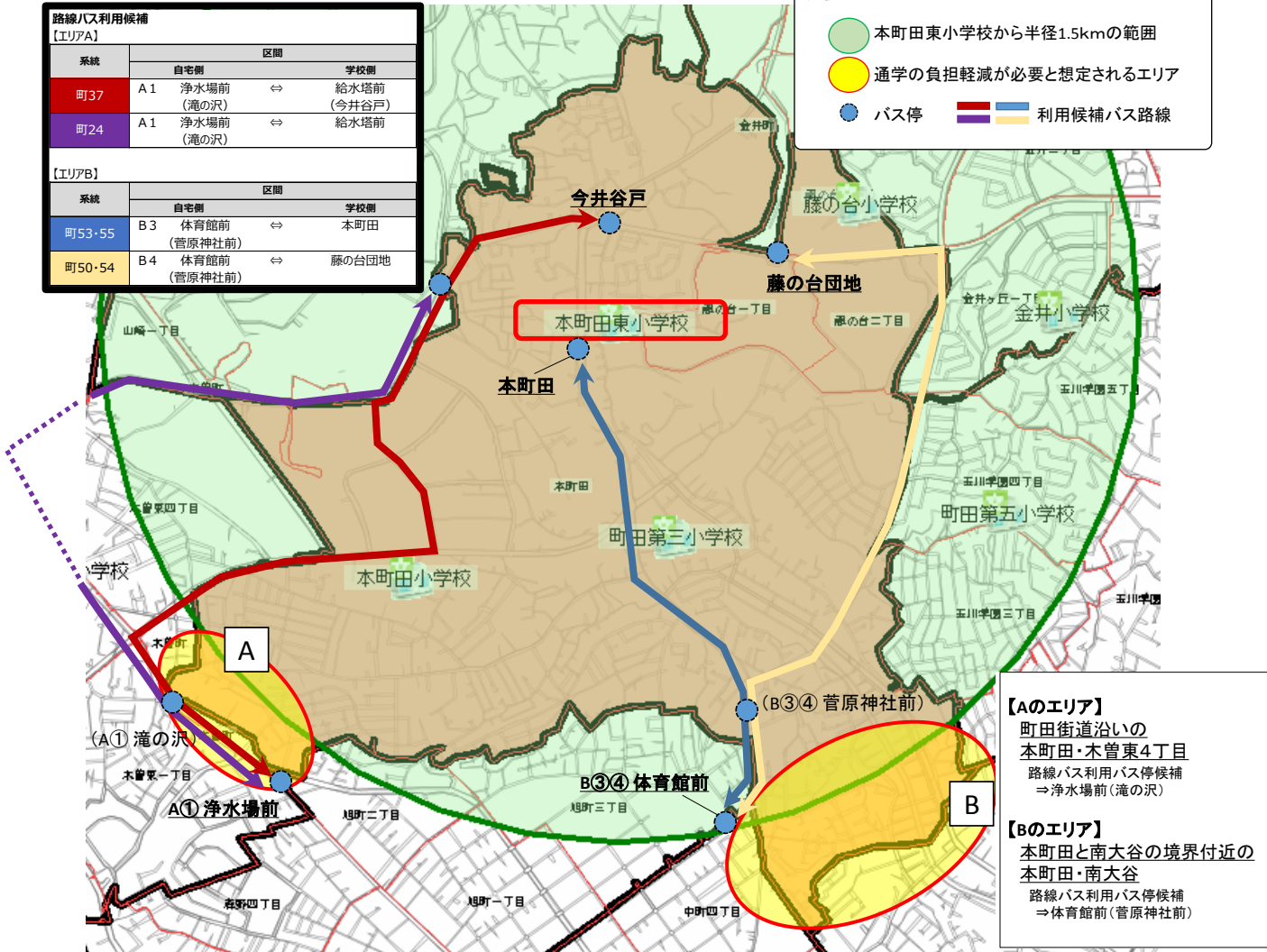
次に、現在の本町田東小学校の位置に通学する2028年度以降について、下記の路線バスを利用した通学例を基に、路線バス利用が想定されるエリア及び学校周辺における、路線バス通学時に想定される徒歩経路と、経路上の懸念点や安全対策等について意見を出し合いました。

＜図2-1-7＞2028年度以降の路線バスを利用した通学例

路線バス利用候補【エリアA】			
系統	自宅側	区間	学校側
町37	A1 浄水場前 (滝の沢)	⇔	給水塔前 (今井谷戸)
町24	A1 浄水場前 (滝の沢)	⇔	給水塔前

【エリアB】			
系統	自宅側	区間	学校側
町53・55	B3 体育館前 (菅原神社前)	⇔	本町田
町50・54	B4 体育館前 (菅原神社前)	⇔	藤の台団地

- 凡例
- 本町田東小学校から半径1.5kmの範囲
 - 通学の負担軽減が必要と想定されるエリア
 - バス停
 - 利用候補バス路線



- 【Aのエリア】**
町田街道沿いの本町田・木曽東四丁目
路線バス利用バス停候補
⇒ 浄水場前(滝の沢)
- 【Bのエリア】**
本町田と南大谷の境界付近の本町田・南大谷
路線バス利用バス停候補
⇒ 体育館前(菅原神社前)

【場面1】バスに乗るまで・バスを降りた後

＜図2-1-8＞エリアA（町田街道沿いの本町田・木曽東四丁目）



意見
・滝の沢バス停は、待つスペースが狭いので危ない。
・待つスペースで考えれば、浄水場前か木曽中原で乗るのが良いと思う。
・木曽中原に一度寄るのであれば、そのまま歩く子もいると思う。
・通学距離的には忠生第三小に通う子もいると思う。

<図 2-1-9> エリア B (本町田・南大谷境界付近)



意見
<ul style="list-style-type: none"> • 本町田くじら山湧き水公園あたりに住んでいる子は体育館前のバス停から行くと思う。体育館前に行くときは、友和自動車の前を渡るのではなくて鎌倉街道まで出てから反対側にわたって、鎌倉街道を横断して体育館前に行くのが安全だと思う。友和自動車の前は車もとばしているし信号もないので渡らせるのは危ないと思う。
<ul style="list-style-type: none"> • 菅原神社前のバス停は使用しないと思う。
<ul style="list-style-type: none"> • 本町田の玉川学園に近いところに住む人は、バスに乗らずに歩いたほうが早いかもしれない、バスに乗るときのルートであれば、しょうたろうの近くの道は一方通行だが車が気になる。
<ul style="list-style-type: none"> • 玉川学園に近い本町田に住んでいる人は、養運寺のバス停から乗るよりは歩くと思う。ただ登校はいいが、帰りが心配
<ul style="list-style-type: none"> • 養運寺のバス停は待つスペースが狭い。

<図 2-1-10> 学校周辺 (現在の本町田東小学校の位置)



意見
<ul style="list-style-type: none"> • 今井谷戸を降りた後はなかよし散歩道ではなくて鎌倉街道を歩いてきた方がいいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> • 今井谷戸の歩道橋は本町田東小学校の子はしっかり使用している。
<ul style="list-style-type: none"> • 藤の台団地のバス停から開進幼稚園の前までの道を行くときには開進幼稚園への送迎の車もあるから注意が必要。藤の台団地の中を歩くと行き止まりなどがあって迷うこともあるからあまり中は通らない方がいいのではないか。
<ul style="list-style-type: none"> • 藤の台団地から降りた後は団地の中を通れると早いと思う。
<ul style="list-style-type: none"> • 今井谷戸のバス停ではなく、藤の台団地のバス停で下車して、団地内を通ることができれば自転車とぶつかる可能性も少なく安全かもしれない。
<ul style="list-style-type: none"> • 日向台交差点から本東小方面に行くときには、一本内側の道は車は少ないが帰りは人通り無くてこわい。
<ul style="list-style-type: none"> • 鎌倉街道で本東小まで一本道だからそれを歩くということもある。
<ul style="list-style-type: none"> • 南側の門が使えると通学しやすい。

③共通事項

次に、路線バスの乗車・降車の際や乗車中などのほか、路線バス通学に関する全体的な観点から、気になることやその解決策等について、意見を出し合いました。

ア【場面2】路線バス乗降中・乗車中

意見
・バスの中で騒がないよう、学校や家庭での指導が必要
・バスを降りるときに左右を確認しないで降りることがあるから指導が必要
・雨の日はバスを降りた時に傘を開くタイミングで止まっちゃったりして詰まっちゃう。
・バスから降りた後に止まらないように、いきなり降りて自転車と接触しないようになどの安全指導が必要
・バスを待つときには道に広がらないなどのマナー指導が必要
・浄水場前から乗るときはバスの系統が多いから間違えやすいと思う。
・小さい子どもはバスの行先を判別して乗ることができるか
・乗るバス停に見守りの人がたってくれていると安心する。
・乗るバスがわかるように対策がほしい。
・学校に行く系統のバスに旗をつけられるとわかりやすい。
・バス停を学校指定
・1人だけ乗るのではなくて、ある程度の人数で乗るのであれば互いに確認できて安心する。
・バスは時間通りに来ないこともある。
・バスが行っちゃったかどうか分かるように、保護者や子どもがバスの現在位置がわかるようにしてほしい。
・バスの乗り間違えが心配、乗り間違えた後の次の乗車の判断をどうするかについては、各家庭でルール作りが必要だと思う。
・登校時には降車時に見守りの人がフォローしてくれるとうれしい。
・登校時のバスに教員も乗車しているときは声かけしてくれると助かる。ただ勤務前でもあるため、教員の働き方もあるかもしれない。
・バスに乗るなら子どもの荷物量を減らすことが大切
・バス代はどうか
・支払時に残額が不足していた時の対応はどうか
・バスを増便してほしい。
・バス停に屋根があるといい。

イ【場面3】その他全体的な観点

意見
・通学に関しては現在もこれからいろいろなパターンを想定して家庭のルールを作っておくといいと思う。
・鎌倉街道やイチョウ通り、消防署前通りは朝は高校生も通学時間。自転車が坂道などですごく早く下ってくることもある。運転マナーなどを高校でも指導してほしい。特にこれからは子ども達が多く歩くことになるからその周知も必要だと思う。
・家の鍵をなくしたなどがあったときには学校に戻るということを選択する子どももいると思うので、そのときに学校に戻るのかなどもルール作りが必要
・歩きかバスかをその日単位で変更することができるのか。
・登校していない児童がいたときの安全確認方法をどうするか。
・タブレットを持たせることはできないか（アプリを入れて位置を確認したり、バスの情報を確認したりできないか）
・人の多いところを歩いてほしいので、人が多いところを歩くようにという道の指定を子どもとしておいたほうが良い。
・事前に決めておいた道を通って登下校するようにしておいたほうが良い。

（５）子どもたちの通学負担の軽減に向けて

新しい通学区域になることで生じる子どもたちの通学にかかる負担の軽減に向けて、本検討会において出された意見を解消するため、関係各所と十分な調整を行い、通学の負担軽減が必要な子どもたちが安心して路線バスを利用して、安全な環境で通学できるようにしていただきたい。

また、対象となる保護者への説明や意見を聞く等の丁寧な対応をするとともに、保護者や地域に対して、通学方法の周知を進めていただきたい。

併せて、現在「町田市学校の統合に伴う学区外通学と費用負担等検討委員会」で検討を行っている「学区外通学制度」の見直しや、通学時の荷物を軽くすることなど、通学手段以外の負担軽減策も実現していただきたい。

2 通学路の安全対策

本町田地区の新たな学校では、現在の本町田小学校の位置に通う 2025 年度～2027 年度と、現在の本町田東小学校の位置に通う 2028 年度以降で、通学先が変わります。これに伴い、通学する児童の流れが変わることから、新たな通学路を設定する必要があります。

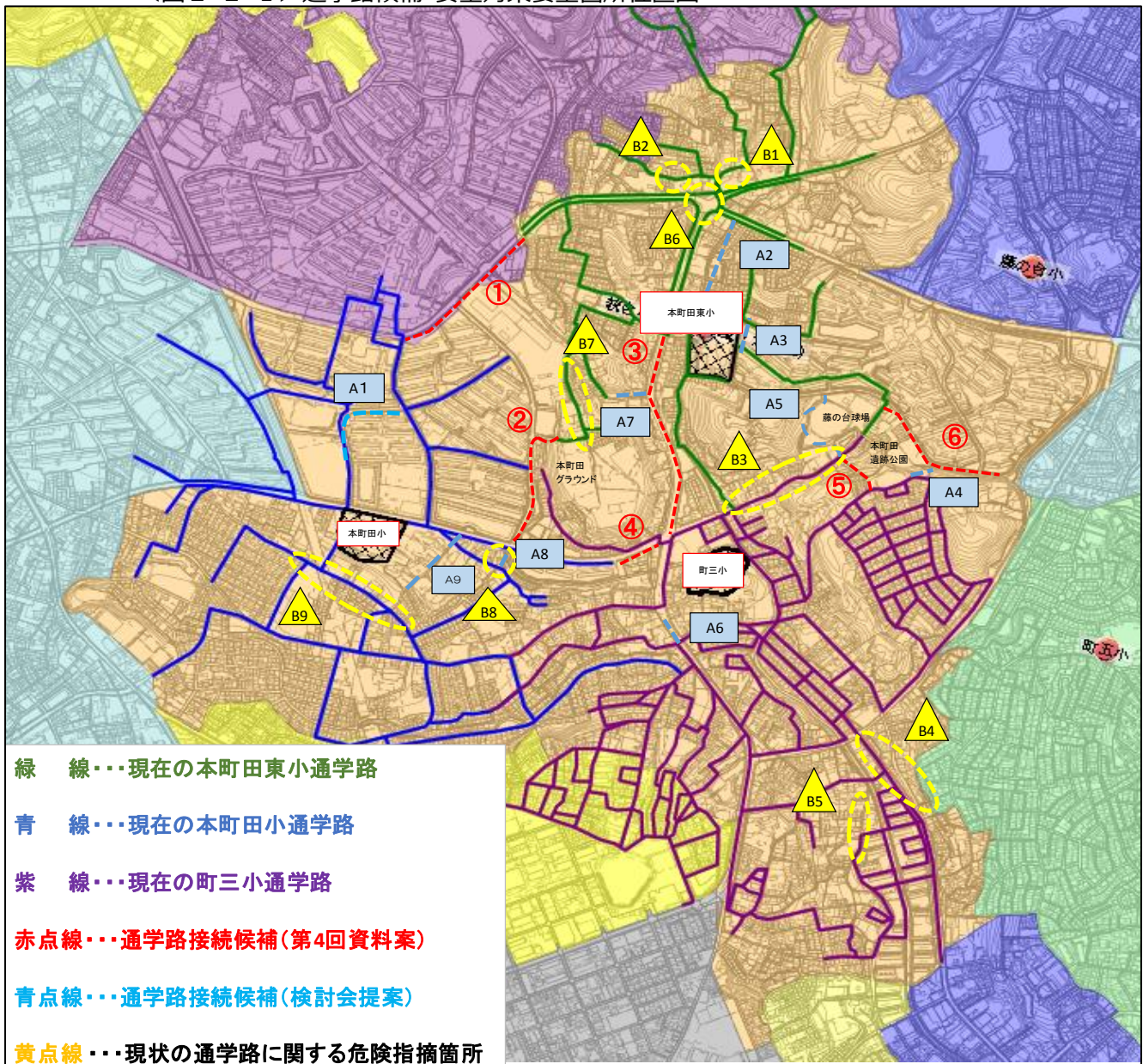
検討会では、それぞれの時点における児童の通学の流れを想定しながら、通学路の候補及び対策が必要と考えられる場所について、現地確認やワークショップを通じて検討しました。

(1) 通学路の候補と安全対策要望事項

通学路については、通学路安全点検などで道路管理者、交通管理者とともに安全対策を行っていることから、基本的には現在の通学路を活用することとしました。このため検討会では、新たに通学路となることが想定される、現在の町田第三小学校、本町田東小学校、本町田小学校の通学路の接続箇所を中心に検討しました。

①通学路候補

<図 2 - 2 - 1> 通学路候補・安全対策要望箇所位置図



②安全対策要望事項

検討に際しては、登下校の時間帯に現地確認を実施したほか、冬期など周囲が暗くなってからの下校も想定されることから、11月に18～19時前後の時間帯で現地確認を行いました。

現地確認やワークショップを通じて議論した結果は、図2-2-2のとおり安全対策の要望事項としてとりまとめました。

＜図2-2-2＞安全対策要望事項のまとめ

委員指摘内容	該当する確認箇所	要望の方向性	委員指摘内容	該当する確認箇所	要望の方向性
1 歩道が狭い（歩道を走る自転車が危ない）	①・③	道路管理者にて自転車専用車道（自転車ナビマーク【図1】等） 自転車のスピード抑止策（「自転車スピード落とし」【図2】等の注意看板）  	12 坂道で車がスピード出す	⑤・A4・A7	道路管理者にて看板等【図5】でスピード抑止対策。
2 歩道が狭い（車とのすれ違いが危ない）	③・A2・A8	道路管理者にポストコーン等【図3】で歩道内の安全対策検討依頼。 	13 暗い（通行の安全性）	⑥・A4・A5	道路管理者にて照度の確保（街路灯設置検討）。
3 周辺店舗への車両の出入り	①	店舗に出入口を明確化する安全対策を依頼（ポストコーン等【図3】）。	14 暗い（不審者）	⑥・A4・A5	安全確保（警察及び見守り隊にてパトロール）。
4 道路の段差	①	補修対応のできるのであれば、道路管理者に補修依頼。	15 交差点に止まれ表示がない	A2	警察に検討依頼。
5 草木が視界を遮る、物陰ができる	③・A4・A5・A7	道路管理者から所有者に剪定指導。 緑の台球場内であれば、指定管理者に剪定依頼。 道路管理者にて照度の確保（街路灯設置検討）。	16 車が双方方向から来るのが危険（スクールゾーンにしてほしい）	A2	警察に検討依頼。
6 信号機のない横断歩道	③・A3・A4	道路管理者にて横断歩道を、明確化する対策（「歩行者注意」看板等【図4】の設置）。 	17 ガードレールを設置してほしい	A3	道路管理者に設置依頼。
			18 横断歩道を設置してほしい	A4	警察に検討依頼。
7 車の視距がない交差点	③	視距が無い原因が、せり出しであれば道路管理者から所有者に剪定指導。	19 スズメバチが危険	A5	巣が道路管理箇所であれば、道路管理者に撤去依頼。
8 （ひなた山の）水路を歩道にできないか	③	下水道部に検討依頼。	20 標識が見えない	A7	道路管理者から所有者に剪定指導。
9 歩道が波打っている	④	樹木による根上がり原因なら、道路管理者に補修依頼	21 一時停止を守らない車両	A8	警察にて取り締まり。
10 狭いカーブで安全確認が困難	⑤・A7	道路管理者にて看板等（「スピード落とし」【図5】）で手前からスピード抑止対策。 	22 道路面に色を塗ってほしい	A8	道路管理者に検討依頼。
			23 見通しが悪い	A9	道路管理者にてスピード抑止対策（「スピード落とし」などの注意看板【図5】等設置）。
11 急坂で安全確認が困難	⑤	道路管理者にて看板等【図5】及び路面溶着（「速度落とし」【図6】）で、スピード抑止をし、安全を確保する。 			

（2）通学の安全対策に向けて

通学区域変更後の通学路候補箇所（現在の通学路との接続箇所）について、上記（1）②の要望のとおり、関係各所へ安全対策を要望していただきたい。

また、既存の通学路についても、引き続き通学路点検を通して、道路管理者や交通管理者等と連携して改善していただいたり、防犯カメラの位置なども効果的な場所を検討・変更したりすることもお願いしたい。

3 施設整備内容

本町田地区の新たな学校の施設整備内容について、複数の施設配置イメージ図を参考にワークショップを行い、児童の教育・生活環境の場である学校施設を前提としながら、「地域開放」「防災」「放課後活動」などのテーマ別に検討しました。

(1) 検討会における施設に関する意見

施設整備内容については、第2回、第4回、第6回、第7回、第10回検討会の5回をかけて多くの意見が挙がりました。各回で出された意見は、P46~47（資料7）にまとめています。

(2) 新たな学校の施設整備に向けて

新たな学校の建設候補地である現在の本町田東小学校については、四方が斜面に囲まれ、高低差のある校地となっており、校地北側の正門は児童、保護者及び車両の出入口が一体となっています。

このような校地の状況を踏まえ、本検討会委員からは、新たな学校を建設するにあたって、児童等と車両の動線を分離するなどの安全性の確保についての意見が多く挙がりました。また、校地西側の斜面や東側の斜面の有効活用や外部から校舎への視線に対する対策についても意見が挙がりました。

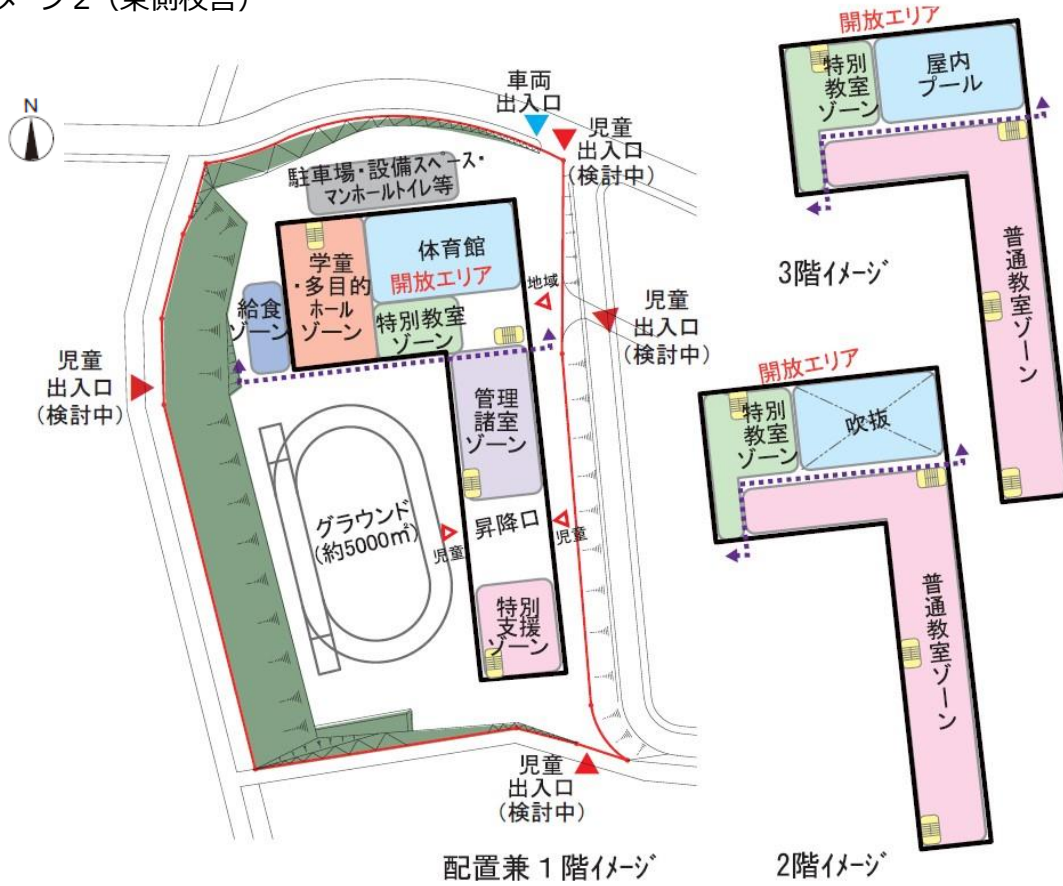
今後、新たな学校の建設候補地である本町田東小学校の校地の条件を活かし、充実した子どもの教育環境・生活環境を整備するとともに、地域施設としての学校を整備していただきたい。

<図2-3-1> 参考：検討会で使用した学校施設配置イメージ図※

○イメージ1（西側校舎）



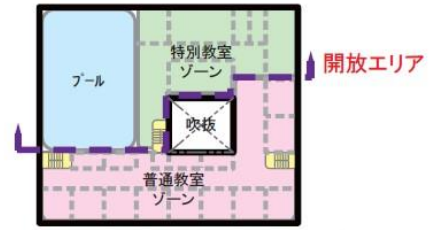
○イメージ 2 (東側校舎)



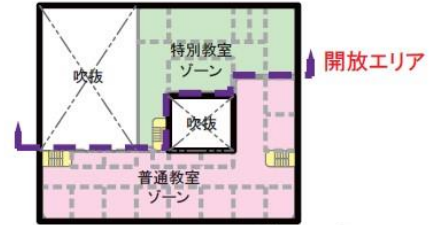
○イメージ 3 (北側校舎 3階建)



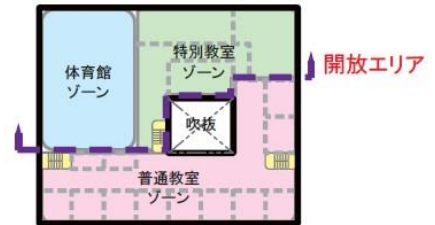
○イメージ3（北側校舎4階建）



4階イメージ



3階イメージ



2階イメージ

※ これらのイメージ図は、新たな学校の施設配置や機能等を検討するために設計業者が参考として作成したものです。これらの案から配置を決定するものではありません。

4 子どもたちへの配慮

学校統合時は、通学先が変わることやこれまでの学校生活とは異なる人間関係、施設環境となるため、子どもたちの負担を軽減できるような配慮が必要です。

検討会では、他市における学校統合時に児童同士が合流する際の配慮事項なども参考にしながら、保護者や地域の視点から心配なことなどについて検討しました。

(1) 検討会における意見内容

- ・事前交流時には、同じ場所にいるだけでなく、子ども同士がお互いに話すきっかけもつけてほしい。
- ・「あの子の顔を知っている」から「あの子の名前が分かる」というように交流を通じて親しくなってほしい。
- ・本町田地域は統合する3校の子どもたちが集まる地域のイベントもあるので、事前にいろいろ交流できたりするといいなと思っている。また、保護者組織同士で合同のイベントがあれば、地域としても協力できたらいいと思う。
- ・保護者組織同士での合同のイベントがあれば、地域として協力できるものがあると思う。
- ・3校の統合が、特別支援学級の児童を含めて、お互いの理解が深まるきっかけになるといいなと思う。
- ・本町田小学校と本町田東小学校では事前交流は実施しているところ。さらにそのあとの町田第三小学校との交流も考えていきたい。

<表 2-4-1> 参考：教育委員会が実施を想定している児童同士が合流する際の配慮事項

No.	項目	内容	備考
1	児童同士の事前交流	合同授業、合同行事などの事前顔合わせにより統合時の不安を軽減できるよう配慮	通常授業や学校行事のスケジュールなどを学校同士ですり合わせながら内容検討
2	教員の配置	統合前の教員を配置するなど継続して児童をサポートできるよう配慮	東京都教育委員会に要望
3	相談体制	相談員を配置して児童が相談できるよう配慮	—

※上記以外にも、他市の事例も参考にしながら児童への配慮について実施を想定しています。

(2) 学校統合時における児童への配慮に向けて

学校統合時には、これまでの学校生活とは異なる人間関係、施設環境での授業開始となります。

本町田地区においては、2025年度に統合する本町田東小学校と本町田小学校で、音楽鑑賞会や本町田小学校を訪れるなどの交流を開始しているところであり、引き続き継続して交流の時間を設けていただくとともに、町田第三小学校との交流も検討し実施していただきたい。

そのため、他市における学校統合時の事例を参考にした配慮について検討・実施をしていただきたいことはもちろんのこと、上記意見内容への対応についても、検討・実施していただき、児童・保護者・地域が円滑に合流できるよう配慮していただきたい。

また、統合前から各校の生活時程や生活指導を合わせる等の対応も検討していただきたい。

5 本町田地区 新たな学校名（案）

2025 年度から使用を予定している新たな学校名（案）については、地域の特色や、学校名を考えるうえで大切にしたいことなどについて、ワークショップなどを通じて検討し、検討会として 3 案を選定しました。

（1）学校名（案）選定の検討経過

学校名（案）を選定するにあたっては、「統合新設校の学校名選定基準について」※1 を参考に、町田市「学校づくり意見募集」※2 に寄せられた地域の特色や、「新たな学校名（案）意見募集」※3 に寄せられた学校名（案）への想いを踏まえながら、3 案選定へ向けた議論を行いました。

＜表 2-5-1＞ 学校名（案）検討経過

項目	2021年度				2022年度									
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
学校名検討経過		新たな学校づくりに関する意見募集実施（地域の特色に関する意見確認）				①学校名案の意見募集 ②学校名を選定するにあたって大切にするべき考え方について意見交換 ③意見募集や意見交換の結果を踏まえて、学校名を3案選定				学校名案を広報/意見確認				

（2）新たな学校名（案）意見募集結果

新たな学校名（案）意見募集※3 では、計 799 件のご意見が寄せられました。

＜表 2-5-2＞ 学校名意見募集結果

■ 回答件数上位 10 位

No	読み仮名	合計	うち児童
1	ひなたやま	65	22
2	ほんまちだ	56	33
3	ひなた	54	20
4	ほんまちだひがしだいさん	47	47
5	ほんまちだひなた	34	14
6	ひなたむら	33	29
7	ほんまちだ しぜん	20	18
8	ほんまちだだいさん	16	14
8	ほんまちだひなたやま	16	8
10	ほんまちだひがし	14	12

■ 回答件数児童上位 10 位

No	読み仮名	児童合計
1	ほんまちだひがしだいさん	47
2	ほんまちだ	33
3	ひなたむら	29
4	ひなたやま	22
5	ひなた	20
6	ほんまちだ しぜん	18
7	ほんまちだひなた	14
7	ほんまちだだいさん	14
9	ほんまちだひがし	12
10	まちだだいさん	9

※1 「統合新設校の学校名選定基準について」については、P48（資料 8）参照

※2 町田市「学校づくり意見募集」については、P42～44（資料 5）参照

※3 新たな学校名（案）意見募集については、P49～50（資料 9）参照

(3) 検討会における学校名(案)の検討

検討会においては、意見募集結果の内容を踏まえながら複数回にわたり検討を行い、委員からは、以下の学校名(案)が出されました。

①学校名(案)

<p>■ 検討会委員からいただいた学校名(案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本町田ひなた小学校(5件) ・ひなた小学校(4件) ・ひなたがおか小学校(計4件) ※日向ヶ丘(3件)、ひなたヶ丘(1件) ・ひなたの丘小学校(3件) ・本町田東第三小学校(1件) ・本町田三校小学校(1件) ・本町田小学校(1件) ・町田ひなた小学校(1件) ・本町田ひなたヶ丘小学校(ひなたは漢字/平仮名表記問わず)(1件)
<p>■ 上記の学校名を考えた理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本町田という地名は大事にしたい。 ・学校の場所が学校名からわかるようにしたい。 ・学校の立地・地形も学校名からわかるようにしたい。 ・ひなたという言葉は、イメージが温かく良いと思う。 ・3校が統合することから、どの学校の名前も大事にしたい。 ・意見募集の子どもたちから多く挙がった意見を大事にしたい。 ・いずれかの学校に吸収されてしまう印象がないように新しい学校名にしたい。 ・「日向ヶ丘」「ひなたの丘」という学校名は、平仮名だとやわらかいイメージで小学生も書きやすく良いと思う一方で、長年使うことを考えると漢字のほうがしっかりしているとも思う。 ・地名も使用して、わかりやすく、長くないものにした方がいいと思う。 ・教育委員会の選定の考え方にも合致する内容で考えたい。

②3案の選定結果

検討会において、上記の内容を踏まえ、以下のとおり3案を選定いたしました。

検討会案	本町田ひなた小学校	ひなた小学校	ひなたの丘小学校
選定理由	意見募集における学校名(案)やその理由と、各委員が学校名を考える際に大事にしたいことなどを確認した結果、新たな学校の所在地が地名・地形といった特色から分かること、また、新しい学校名にしたいという想いや、言葉のイメージを加味して、上記の3案を選定しました。		

(4) 学校名(最終案)の選定に向けて

教育委員会で最終案を選定するにあたっては、学校名を選定する際の教育委員会の考え方に加えて、意見募集の結果や本検討会で各委員から出された「想い」を踏まえて、本町田地区の新しい小学校にふさわしい学校名を選定していただきたい。

6 歴史の継承

本町田地区の新たな学校においても、引き続き、各校の教育活動などに関わっていただいている方々や、地域の方々に愛着をもっていただけるよう、各校の歴史や想いの継承について検討しました。

(1) 検討会における意見

各校にある卒業制作などの物品や、教育・地域活動など、新たな学校に引き継ぎたいものや活動等について、物品調査の結果や委員からの意見を基に整理し、それぞれについての方向性を検討しました。

検討会で出された意見は下記のとおりです。

<表 2-6-1> 学校ごとの意見

町田第三小学校グループ

- 卒業制作：卒業生に返却していくことをきっかけに集まることもあるかもしれない。鑑賞の場を設けるのもありかも。
- 寄贈品：寄贈者がわかれば寄贈者に返却していくことでいい。百周年の記念碑は町田第三小学校があったことがわかるように今の場所に置いてあるといい。跡地の中で検討してほしい。
- 植栽：もみじも梅の木も引き続き現在の場所に置いといてほしい。跡地の中で検討してほしい。
- 教育活動：学校の先生同士で検討することがいい
- 地域活動：地域の主催団体ごとに検討することがいい。
- その他：新しい学校に持っていくことは難しいと思うので、基本的にデジタル保存で残してほしい。町田第三小学校がここにあったことがわかるように木や石碑を残してほしい。メモリアルルームをつくるのではなく、地域開放の部屋の壁とかにかかけとくとかがいいと思う。

本町田東小学校グループ

- 卒業制作：卒業生に返却していくことをきっかけに集まることもあるかもしれない。鑑賞・感傷の場を設けるのもありかも。
- 寄贈品：図書コーナーの椅子は3分割にとることもできるので、新しい学校の図書室などで使ってもらえるとうれしい。メモリアルルームの内容は、卒業制作などと同様デジタル保存していくことでいいと思うが、教育的に使うかなども含めて、どれを残すかなどは学校の判断で良いと思う。
- 教育活動：学校の先生同士で検討がいい。統合後は人数もクラス数も違うため、その状況でどのように新しい教育活動をしていけるかという視点から考えたほうがいい。
- 地域活動：ほかの学校で行っていたまつりや町内会の運動会の地域行事を全て本町田東小学校の場所のでできるのかが心配。
- その他：原則として、3校のものをもっていくことは現実的には難しいと思うのでデジタルに保存してほしい。デジタル保存するときには、当時の校舎内での配置位置が思い出せるような工夫をしてもらえるといい。学校の教室などに掲げている表札については新しい学校で使えるなら使ってほしい。3校が統合して新しい学校になったということがわかるように、新しい学校の施設が具体になったときに、学校の中で歴史が見られるような工夫をしてほしい。（例：廊下などに配置、コミュニティルームなどに配置）

- 卒業制作：校歌板は卒業制作なのでデジタル保存をしてほしい
- 教育活動：学校の先生同士で検討することがいいが、形は変わっても、良い活動は主旨を活かした別の活動でもいから残してほしい。
- 地域活動：地域の主催団体ごとに検討することでいい。形は変わっても、良い活動は主旨を活かした別の活動でもいから残してほしい。
- そ の 他：面積を考えると新しい学校にもっていくことは難しい。普段見ることができる状態ではないものはデジタル保存などでいつでも見られる状態にしてあげたほうがいい。
和太鼓は新しい学校でも使用できるなら教育活動で使ってもいいと思う。
ふるさと館は面積がおおきいことと、教育活動では使っていないので、新しい学校に持っていかずデジタル保存がいい。資料室の内容はデジタル保存でみんなに見てもらえるようにするのがいい。

(2) 検討会における物品・活動等の継承・保存方法等の方向性

検討の結果、それぞれの物品・活動等の継承・保存方法等の方向性を表2-6-2にまとめました。

<表2-6-2> 物品・活動等の継承・保存等の方向性

□町田第三小学校

分類	物品・活動等	継承・保存方法等
1 卒業制作・ 校名板・ 校旗・ 校章・ 記念冊子	1982年度卒業制作（校歌） 第38回卒業生卒業制作（校歌） 第39回卒業生卒業制作（レリーフ） 1997年度卒業制作（鏡） 1998年度卒業制作 1999年度卒業制作 2002年度卒業制作	デジタル保存 卒業生へ返却を検討
2 記念碑	百周年記念碑	デジタル保存 跡地に設置を検討要望
3 記念樹	もみじの木 梅の木（3本）	デジタル保存 跡地に設置を検討要望
4 展示物	25回卒業生寄贈石碑 絵画 土器・唐箕 町田市子ども憲章 揮毫 学校の歴代航空写真 版画×6枚 石柱×2本 トロフィー、賞状等 日時計 版画×2枚 レリーフ レリーフ×2枚	デジタル保存 寄贈者へ返却を検討 引き取り手を探すことも検討
5 教育活動・ 学校行事	農園活動 稲作活動 縦割り活動 地域に密着した活動 読み聞かせ活動	学校同士で検討
6 地域活動 ・地域行事	いなほ会 盆踊り大会 名人芸大会 運動会	地域団体の円滑な合流・連携
7 その他	給食 校風 町三小音頭	学校同士で検討 デジタル保存

□本町田東小学校

分類	物品・活動等	継承・保存方法等
1 卒業制作・ 校名板・ 校旗・ 校章・ 記念冊子	1976年度卒業制作（校歌） 1979年度卒業制作（レリーフ） 1981年度卒業制作（レリーフ） 2020年度卒業製作（ペイント）	デジタル保存 卒業生へ返却を検討
2 展示物	東っ子わくわく広場 模型、写真等 教室の表札 季節行事関連の品（こいのぼりなど） レリーフ 木製 レリーフ 木製 日時計	教育活動で利用できるものは継承、 他はデジタル保存 引き取り手を探すことも検討
3 教育活動・ 学校行事	東祭り 縦割り活動 地域交流	学校同士で検討
4 地域活動 ・地域行事	地域交流 どんと焼き	地域団体の円滑な合流・連携
5 その他	給食 校風	学校同士で検討

□本町田小学校

分類	物品・活動等	継承・保存方法等
1 卒業制作・ 校名板・ 校旗・ 校章・ 記念冊子	統合前3校の資料 (原小・緑ヶ丘小・本町田西小)	デジタル保存
2 展示物	ふるさと館（郷土資料）	デジタル保存
3 教育活動・ 学校行事	本小まつり 本小体操 本小タイム サマースクールの体験学習 地域交流	学校同士で検討
4 地域活動 ・地域行事	地域交流 芸術祭	地域団体の円滑な合流・連携
5 その他	和太鼓 給食	学校同士で検討

※物品に関する写真については、P51～52（資料10）参照

(3) 歴史の継承に向けて

上記の意見を踏まえた配慮や工夫をしていただくとともに、新たな学校の児童においても、3校の歴史を感じられるような工夫を検討していただきたい。さらには、当時の学校のことを卒業生や地域の方々も思い出せるような工夫をするなどして、地域の学校として愛着をもてるよう配慮をお願いしたい。

7 育てたい子ども像

本町田地区の新たな学校に通う子どもたちについて、どのような子どもに育てて欲しいか、これを実現する教育理念をどのようなものにするか、意見募集の結果や現在の町田第三小学校と本町田東小学校と本町田小学校の教育目標を確認しながら、育てたい子ども像について検討しました。

(1) 本町田地区の小学校の教育目標

①町田第三小学校

心豊かで、自分に自信をもち、相手を尊重しながら自己を表現できる児童の育成を目指す。

○ 元気な子

(心や体を鍛え、健康的で活力のある生活をする子「アクティブに生きる力」)

○ よく考える子

(自らの課題に向き合い、まわりとの関わりを通してよく考え、すすんで課題解決に取り組む子「課題解決力」)

○ 思いやりのある子

(自他ともに認め、お互いを大切にする子「人間関係形成力」)

②本町田東小学校

○ 「よく考え、行動する子」

(主体的に学び、豊かな発想で工夫ができる子供の育成「主体的問題解決力」)

○ 「思いやりのある子」

(命や自然を大切に、互いに尊重し合える子供の育成「人間関係形成力」)

○ 「元気でたくましい子」

(心身を鍛え、目標に向かい努力する子供の育成「実践行動力」)

③本町田小学校

日本国憲法・教育基本法に基づき、未来社会の創り手として、主体的に学び続ける児童の育成を目指して、次の教育目標を定める。

「心豊かにかがやく本町田小の子ども」

○ 自ら考え、努力する子ども

(主体的に学び続ける勤勉性と問題解決力)

○ 思いやりのある子ども

(豊かな心で他者を尊重する人間関係調整力)

○ 体をきたえる子ども

(自ら体を鍛え、目標に向かって向上しようとする自己実現力)

(2) 検討会における委員の意見

- ・自分の足で歩ける子
- ・共感・協働・思いやりなどをもってほしい。
- ・いろいろなことに興味を持って主体的に学んでほしい、それらを体験していく子どもに育ててほしい。
- ・環境の変化に対応できるようになってほしい。
- ・「至誠一貫」、常に相手の立場に立って真心を尽くす、相手の立場に立って考えられる優しい心を持った子
- ・自然豊かな環境の中、子どもたちが素直で明るく、元気よく、健やかに、お友達から慕われ、人に優しく、温かな気持ちの持てる子
- ・自分で考えて行動に移せる子
- ・自分で考えて、これが正しい、これは間違っているということを判断できて、それが判断できたときに自分が正しいと思うことができる勇気をもった子
- ・自分の意見も尊重し、相手の意見もちゃんと聞いて、お互い違うところを認めながら意見交換できる子
- ・自分を素直に出せなかったり、自分を少し押し殺してしまうことがないような子
- ・自分の意見を言えている子
- ・グローバル化が進む中で、英語などの外国語が話せる子、国際的な視野を持った子
- ・未来社会に生きるため積極性や創造力、いろんな学力をもち、そこに柔軟な心を持った子
- ・NOと言える、嫌なことは嫌と言える子
- ・集団での生活の中での協調やお互いを尊重し合える子
- ・思いやり、この気持ちを育てていただきたい。
- ・物事に楽しんで取り組む子（未来への希望を持てる子）
- ・いろんな人・考え・行動を認められる子（みんな違ってみんないい）
- ・体力低下も心配なので体力がある子。荷物の重さもあるが歩くことも大切
- ・学校が大好きで毎日を楽しく過ごせる子

(3) 教育目標策定に向けて

検討会では、自分で動ける・話せるなどの主体性、相手も自分も尊重する思いやり、環境変化に対応できる子に育ててほしいなどの意見が挙がりました。

また、子どもを育てるにあたっては、「絶対にこうでなくてはならない。」といったように、型にあてはめることを強要するのではなく、その子に合った教育をしてほしい、時代にふさわしい教育をしてほしいといった、育てたい子ども像だけではなく、子どもを育てるにあたって大事にしてほしいという観点についても意見が挙がりました。

今後、学校が統合される 2025 年度までに、3 校の学校長には、これらの意見や意見募集の内容を踏まえ、本町田地区の新たな学校における教育目標を考えていただきたい。

8 学校運営協議会・ボランティアコーディネーター

学校と地域の効果的な連携・協働を推進していくために、学校には、学校運営協議会及びボランティアコーディネーターが設置されています。

学校統合時にはこれらの組織が合流するため、教育委員会が認識している課題等について情報共有がありました。

(1) 検討課題

学校統合時に考えられる課題は、以下のとおりです。

① 学校運営協議会

統合後の学校運営協議会の体制（人数・構成）について

② ボランティアコーディネーター

ア ボランティアコーディネーターの体制（人数・構成）について

イ 統合対象の各校で行っていた同一内容の活動及び活動への協力団体等の調整等

(2) 本町田地区の新たな学校の地域協働に向けて

新たな学校に向けた地域協働については、現在実施している各校の地域協働の良いところを受け継ぎ、新しい学校でも実践して行ってほしい。

そのためにも、各校の運営協議会やボランティアコーディネーター同士による調整など様々な課題が予想されるため、以下の例を参考にしっかりとスケジュールを設定し、取り組んでいただきたい。

<表 2-8-1> 参考 1：検討スケジュール例

検討事項	時期	検討主体
学校運営協議会委員・ボランティアコーディネーターの体制	統合前年度 6 月まで	各学校運営協議会 各校長
新学校運営協議会委員・新ボランティアコーディネーターの選出	統合前年度 2 月まで	各校長 教育委員会
上述以外の検討事項	統合前年度まで	各学校運営協議会 各校長

<表 2-8-2> 参考 2：学校運営協議会及びボランティアコーディネーターについて

名称	活動内容
学校運営協議会	地域と一体となって子どもたちを育む学校を目指し、地域住民・保護者・ボランティアコーディネーター等で構成され、どのような子どもたちを育てるのか、そのために何をやっていくのかを話し合っています。
ボランティアコーディネーター	各校に 1 名から 2 名程度配置され、授業中の学習支援から通学路の見回り、花壇のお手入れ等、様々な地域の方が関わる「地域学校協働活動」について、学校のニーズに合わせてボランティアの手配等を行っています。

9 P T A（保護者と教職員による組織）

現在、子どもたちの健全な成長などを目的として、P T Aが設置されています。

学校統合時にはP T A同士が合流するため、統合対象校の各P T Aから伺った課題等について情報共有がありました。

（1）検討課題

新たな学校におけるP T Aに関する検討を行う際に考えられる課題は以下のとおりです。

①新しい学校での活動に向けての主な課題

- ア P T Aの体制検討
- イ 活動内容の検討
- ウ 運営費の検討

②現在の組織の活動等についての主な課題

- ア 損害保険等の契約の整理
- イ 積立金や繰越金等の清算
- ウ 現在使用している備品等の整理

（2）本町田地区の新たな学校のP T Aに向けて

本町田地区においては、3校のP T A同士による統合に向け、上記の課題について話し合いを始めています。2025年度に統合する2校のみならず、2028年度に統合となる町田第三小学校のP T Aも交えながら、今後も継続的に話し合いを進めていただきたい。

新たな学校のP T Aについては、各校共通している組織の活動目的等を踏まえ、良いところを受け継ぎ、新たな学校で実践して欲しい。

<表2-9-1> 参考1：他市におけるP T A同士の検討スケジュール例

統合3年前	統合2年前	統合1年前	学校統合年度
・組織の運営形態及び編制の検討	・組織の運営形態及び編制の検討 ・新会則案検討 ・会費の引継ぎ方法検討	・各校で新会則承認 ・各校で本部役員内定 ・会費の清算・決算	・新役員、新会則による運営開始

<表2-9-2> 参考2：各校のP T Aの活動目的について

学校名	活動目的
町田第三小学校	本会は学校・家庭・地域における児童の健全な成長をはかることを目的とする。
本町田東小学校	本会は、会員相互の懇親を深めると共に、児童に対するより良い教育効果の為に協力する事を目的とする。
本町田小学校	本会は、本校に集う子ども達の心豊かな成長と幸福を願い、保護者と教職員の親睦をはかることを目的とする。

10 校歌・校章

本町田地区の新たな学校の校歌・校章について、新たな学校に通う子どもたちの円滑な合流の実現の観点から校歌・校章の作成時期や方法について検討しました。

(1) 検討会における校歌についての意見

①作成時期

- ・事前に校歌のフレーズを出し合ったりして一緒に出し合っつけていくことで統合対象校間の一体感を出すことができると思う。
- ・最低 2028 年度までに欲しいが、2025 年度の統合時にみんなで歌ったりすることができるのでみんなで一体感をもつことができると思う。
- ・統合するタイミングに新しい学校になるのであれば、そのときに歌える学校の校歌があったほうがいいが、町田第三小学校が遅れて合流してくるので、温度感をすり合わせてできるといい。
- ・統合後につくるのも一つの考えとしていいのではないか。

②作成方法

- ・3校の子どもが一緒になって何かつくったという連帯感を高められるような形で作り合うことが大事だと思う。
- ・子どもと地域の方々で出していた案を地域にゆかりのある方に、まとめていただいて形にさせていただくのがいいと思う。
- ・100年、200年残ることも見据えて、最後の仕上げは専門家をお願いをする方が良く思う。
- ・ゆかりのある人に作ってほしい。
- ・それぞれの学校があるうちに校歌をつくったほうが、今の学校のキーワードを引き継いで新しい学校のものがつくれるのではないか。
- ・近隣の大学と協力して作成する方法もいいと思うし、その後も学校と大学との連携が継続して続けられるようなことができるといい。
- ・地域の方への公募を実施するのもいいが、キーワード等の想いは受け止めつつも、中立的な立場である専門家に依頼することもいいと思う。
- ・本町田東小と本町田小の作詞家は同じ地域の方なので、地域にゆかりのある方に作っていただくのもいいと思う。
- ・現在の校歌は、各校の地域の情景なども歌っているから、参考にして作ってもらえるといい。

<図 2-10-1> ■参考 1：統合対象校 校歌

<p>三 本町田小学校 どこまでも</p> <p>三 みんな 風に乗れ みんな はばたこう かかやこう</p> <p>二 朝を呼ぶ 開くまで 風に向かえ みんな</p> <p>二 大きな夢を 追いかけて 響く歌声高らかに つづけていこう つたわるよ</p> <p>一 ぐんと葉をのぼす 大地のめぐみ 強い体はのびやかに ながくとうとい命から きりり晴れわたる 空いっばいに さかすかに 追いかけて 響く歌声高らかに つづけていこう つたわるよ</p> <p>一 本町田小学校 作詞 笠井 八重 作曲 荒谷 俊治</p>	<p>三 あしたの世界のふしぎでも 未知の世界のふしぎでも あしたの太陽 はばたこう 本町田東小学校</p> <p>二 七国山にかけのぼろう 薬師の森の静けさに 明るい子どものわらい声 あふれる 黒くうるおう校庭に 未知の世界のふしぎでも あしたの太陽 はばたこう 本町田東小学校</p> <p>一 東の空に 朝日に光る若竹の 学ぶ窓辺に 輝く 七国山にかけのぼろう 薬師の森の静けさに 明るい子どものわらい声 あふれる 黒くうるおう校庭に 未知の世界のふしぎでも あしたの太陽 はばたこう 本町田東小学校</p> <p>一 本町田東小学校 作詞 笠井 八重 作曲 本間 正夫</p>	<p>三 霜雪のしぎて 微草が薫る 元気に作る 栄えよながく いつまでも 町田第三小学校</p> <p>二 桜の吹雪の 紅葉の錦の まじめなたのしい 我等の母校 花咲く梅に 世界に輝く つとめものしい 我等の母校 いつまでも 町田第三小学校</p> <p>一 町田第三小学校 作詞 若林 牧香 作曲 平井 康三郎</p>
---	--	--

(2) 検討会における校章についての意見





①作成時期

- ・事前にデザインを一緒に出し合って作成することで、統合校同士の一体感を醸成することができると思う。
- ・2028年度までに作成するのがいいのではないかと。また、2025年度の統合前に授業で作成する機会を設ければ、一体感をもつことができると思う。
- ・町田第三小学校の統合時期を考慮し、温度感をすり合わせられるといい。

②作成方法

- ・子どもや地域の方々に作成してもらったものを、最終的には専門家に校正してもらった方がいいのではないかと。
- ・近隣の大学と協力して作成する方法もいいと思うし、その後も学校と大学との連携が継続して続けられるようなことができるといい。
- ・地域の方への公募を実施するのもいいが、デザインやそれに込める想いは受け止めつつも、中立的な立場で専門家に依頼することもいいと思う。

<表 2-10-1> 参考 2 : 統合対象校 校章と由来

町田第三小学校	本町田東小学校	本町田小学校
		
<p>町田第一小学校の校章※を基に、学校名の「三小」を組み込み作成された。</p> <p>※町田第一小の校章とその由来 </p> <p>梅の花びらの中に町田の文字を図案化している。町田天満宮に祀る菅原道真公のように、学問の好きな子どもになるようにという願いが込められている。</p>	<p>地域には、薬師池公園にあるお堂に人の健康を守るとされる薬師如来の仏像と、子どものかかりやすい腹痛などに効く薬草「ゲンノショウコ（現の証拠）」の自生があり、この地域性から、「ゲンノショウコ」の葉を図案化して、子どもたちの健康への願いを込めたものである。</p> <p>三葉は、「考える子ども（頭の健康）・明るい子ども（心の健康）・強い子ども（身体の健康）」を表わしている。</p> <p>統合した三つの学校（緑ヶ丘小・原小・本町田西小）を町田市の市の木「けやき」の若葉で表し、さらに一つとなったことを表わしている。</p>	<p>統合した三つの学校（緑ヶ丘小・原小・本町田西小）を町田市の市の木「けやき」の若葉で表し、さらに一つとなったことを表わしている。</p>

(3) 校歌・校章の作成に向けて

2025年度や2028年度の学校統合の際に円滑な合流が実現できるよう、校歌・校章は3校の子どもも交えながら一緒になって作成を進めていただきたい。

また、これらの作成にあたっては、子どもたちや地域の方々の想いを大事にするとともに、下記の参考3に掲げる他自治体の事例を参考に進めていただきたい。

<表 2-10-2> 参考 3 : 他自治体等における作成方法事例

作成方法	内容
公募	市の広報や学校だよりなどで公募し、選考会などで選定
児童の案	児童の案を元に先生や専門家が修補、選考会などで選定
地域に縁のある人に依頼	町田市や地域に在住または出身の方に依頼
地域の大学等と連携	地域の大学と協力して作成
学校の先生による作成	統合する学校同士または統合新設校の音楽や国語、図工の先生などに作成を依頼
専門家に依頼	作詞家や作曲家、デザイナーに依頼

1 1 その他新たな学校づくりに関連する事項

本町田地区の新たな学校づくりに関連して町田市で検討を進めていく事柄について、現状や課題、検討スケジュール等についての情報共有がありました。検討会では、以下の4項目について意見交換を行いました。

(1) 学校跡地（企画政策課）

学校は、教育活動（授業・部活動）の場としてだけでなく、災害時の避難施設など、地域住民にとって、地域の状況に応じた地域の活動の場としても身近な場所となっていることから、2028年度以降の町田第三小学校と本町田小学校の跡地の活用について、以下のとおり情報共有がありました。

① 学校跡地の基本的な考え方

学校は避難施設や地域の活動の場など、地域住民にとって身近な場所として、多くの機能を担っています。学校跡地の活用に関する検討は、以下の基本的な考え方に基づいて進めます。

- 地域にとって必要な機能は、その地域における統合新設校や周辺施設等へ引き継いでいきます。
- 校舎などの建物は原則として取り壊します。
- 「市有財産の戦略的活用に関する基本方針」に基づき、民間事業者等への貸付・売却なども含めた、効果的な利活用を図ります。

② 学校跡地に関する今後の進め方

今後、市内の小・中学校の一部が順次閉校となりますが、閉校の時期が近い学校もあれば、10年以上先の学校もあります。

その時期の社会や地域の状況をふまえた学校跡地の活用を行うために、それぞれの地区において、新しい学校をつくるための基本計画の検討着手に合わせて、跡地の活用検討もスタートします。

概ね以下のイメージで、跡地の活用を進めます。地域のみなさまがどのようなご意見をお持ちなのかをお聞かせいただきながら、跡地活用の方向性を検討していきます。

跡地活用検討スケジュール例（本町田地区の場合）

跡地6年前 (2022年度)	跡地5年前 (2023年度)	跡地4年前 (2024年度)	跡地3年前 (2025年度)	跡地2年前 (2026年度)	跡地1年前 (2027年度)	(2028年度以降)
【跡地活用の方向性検討】 市民アンケート、地域との意見交換など			【活用そのままの 方向性決定】	【校舎解体・跡地活用の詳細 検討（・決定）】		校舎解体・跡地活用

町田第二地区の動き（予定） ※（）内は検討着手年度

- ・町田第三小、本町田東小、本町田小 2028年 現在の本町田東小の場所に小学校を建設（2021年）
- ・町田第三中、山崎中 2031年 現在の木曽山崎公園の場所に中学校を建設（2025年）

③検討会委員の意見

- ・本町田地区で見ても、町田第三小学校、本町田小学校、町田第三中学校、山崎中学校、市内で見るとあちこちで跡地が出るのが想定されるため、膨大なものだと思う。
- ・跡地活用については、市民サービスの向上、市の安定的な財源確保などの様々な観点があると思うが、学校については地域での活動の場ともなっていることから、地域の意見をしっかり受け止めながら決めていただきたい。

(2) 学校が担う避難施設機能（防災課）

学校は避難施設に指定されていることから、学校統合に伴う地域の避難施設の考え方について以下のとおり情報共有がありました。

①近隣の避難施設に分散

防災課と町内会・自治会等で想定避難先を決め、既にその想定避難先への避難を決めている町内会・自治会等との間で調整の場を設けます。

②避難場所の拡充の検討

避難施設になっている学校の空き教室の開放、現在避難施設に指定されていない施設（民間施設も含む）の活用、避難広場にテントを張れるようにするなどの拡充を検討します。

③学校跡地における避難施設機能

学校跡地の活用は、避難施設機能を引き継ぐことも含めて検討していきます。

④検討会委員の意見

- ・新しい学校ができる 2028 年度以降だけではなく、校舎建替工事期間中である 2025～2027 年度の間のことについても、しっかりと検討してほしい。
- ・本町田東小学校を避難先としている町内会・自治会などに、代わりの避難先としては本町田小学校より近い施設があれば、そこに避難できるようにしてもらえるといい。
- ・現在は避難施設ではないが、近隣に所在する市や民間の施設を利用できるようにしてもらえるといい。
- ・町三小や本町田小の跡地については、空調工事した体育館などがあるので、そこを避難施設として残すということも考えてほしい。
- ・本町田地区の各校の避難施設運営連絡会には早めに方針を知らせてもらえると、使えなくなる前から事前訓練などを行える。
- ・町内会・自治会への避難先について、今後変わる場合もそうだが現在の避難先に関しても知らない人が多いので、もっと周知をお願いしたい。

(3) 学童保育クラブ（児童青少年課）

学校統合に伴う学童保育クラブの考え方について、以下のとおり情報共有がありました。

① 一小学校区に一つの学童保育クラブ

現在、町田市では一つの小学校区に一つの学童保育クラブを整備しています。学校統合後もこの考え方を継続することとし、児童の安全確保や学校、地域との連携を図るため、学校が統合される場合、学童保育クラブも統合します。

② 低学年児童（1～3年生）と障がい児の全入制度

現在、市が定めた期間に申請した入会要件を満たす低学年児童と障がい児は全員入会することができ、学校統合後もこの制度を継続していきます。高学年児童についてもコース等を踏まえて育成スペースを整備していきますが、施設定数以上の申請があった場合には現在と同様に選考を行い、保育の優先度の高い方から順次入会することとします。

③ 今後について

学童保育クラブの施設整備方法・管理運営方法・登降所に関する課題について、教育委員会と連携しながら検討していく予定です。

④ 検討会委員の意見

- ・狭いスペースに押し込むということがないようにしてほしい。
- ・監督者や指導員など、大人の数が増えることがないようにしてほしい。
- ・夏休み期間中など、お弁当を持っていくことになるが、傷まないように管理するスペースがあるといい。もっと言えば、お弁当を業者から購入できるなどの制度も検討してもらえるといい。
- ・新校舎については、施設を建設するから大丈夫だと思うが、2025年度の本町田東小学校と本町田小学校の統合時に、これまで学童保育クラブを利用できた方が、利用できなくなるということがないようにしてほしい。
- ・学童とまちともについては、どちらもすごく大事な居場所になっていると思うから、施設部分も、活動内容も連携してほしい。
- ・まちともについては、部屋が不足しているかということから、まちとも事務員と共用して使っているところがあるので、必要な部屋が不足することがないようにしてほしい。
- ・保護者の送迎の方法についても検討してほしい。

(4) 特別支援学級（教育センター）

今後の小学校特別支援学級配置の考え方について、以下のとおり情報共有がありました。

① 現在、特別支援学級を設置している学校

統合時に移転先の学校に移行します。

② 新たな学校づくりにおける特別支援学級の設置の考え方

ア 「知的障がい特別支援学級」及び「自閉症・情緒障がい特別支援学級」

⇒全小学校への設置を目指して、建替え時に設置する

イ 「肢体不自由特別支援学級」

⇒新たな学級整備は行わない

以上の考え方に基づき、本町田地区の新たな学校では、「知的障がい特別支援学級」及び「自閉症・情緒障がい特別支援学級」の設置を予定しています。

<表 2-11-1> 参考 1：特別支援学級等設置スケジュール

対象校	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
本町田東小	既存校舎						新校舎使用			
	通級指導学級(言語・難聴・弱視)			(新校舎建設)			知的学級・情緒学級			
本町田小	既存校舎		移転	移転先:本町田小以外		移転				
	知的学級・情緒学級									
町田第三小	既存校舎									

③ 検討会委員の意見

- ・本町田東小学校と本町田小学校が統合となる 2025 年度については、本町田小学校の特別支援学級の子たちは、特別支援学級同士の合流がないのでそこまで大きな影響はないのではないかと思います。
- ・本町田東小学校には特別支援学級がないので、事前に特別支援学級のことを伝えるなどして相互理解が進める状況を作れるといいなと思った。
- ・特別支援に詳しい先生が引き続き新しい学校にも残ってもらえるような配慮をしていただきたい。

